

◆リレー寄稿

生協の支えが大きな力に



あいコープふくしま
理事長 佐藤 孝之氏

8カ月間は、あっという間でした。東京電力福島第一原発事故による深刻な放射能汚染は全く解決されておらず、復旧も復興も全く進んでおりません。浜通り地方では15万人が県内外で避難生活を余儀なくされています。

私たち、中通りに住む県民150万人も、高度の土壌汚染と低線量被爆を受けて「不安と脅え」の毎日です。子どもたちの健康と将来を考えた県外避難は、現在も続いています。あいコープふくしまでは、生産者と一体となって、安全な農作物の出荷に取り組んでいます。また、仮設住宅で避難生活を送る方々への支援も始まりました。

こうした状況下、生協の仲間よりいただいた支援見舞金は、大きな力になりました。また、全国からの支援の輪は、くじけそうになる気持ちを支え、子どもたちを守り、この地で暮らす力になると確信しております。放射能被害は長期間であり、復旧に向けて頑張る決意を述べて報告とします。

おおいた・決意の象徴「豊後梅」の植樹式実施

震災を機に交流の深まった福島県への支援を続けるコープおおいたは、11月15日、末永く支援する決意の象徴として大分県の県木である「豊後梅」の苗木を相馬市、新地町の小中学校に贈呈しました。

当日は午前相馬市立桜丘小学校、午後新地町立福田小学校で植樹式を実施。コープおおいたの松尾孝子組合員理事らは、両校の生徒の皆さんと力を合わせ、校庭の一角に苗木を植えました。

出席した桜丘小学校の4年生からは「実がなるのが楽しみ」、福田小学校の6年生からは「卒業式には花が見たい」と喜びの声が。

植樹後は被災地域を視察、さらに新地町小川公園応急仮設住宅で、今後も意義ある支援を行なっていくために住民の方にお話を伺いました。

両生協の、この間の交流は、
(http://d.hatena.ne.jp/coop_fukushima_oita/)
にて掲載中。「検索：コープふくしま コープおおいた 交流ブログ」



豊後梅の苗木を贈呈する、コープおおいた佐藤麻美組合員理事。



児童も一緒に苗木を植えた。

初収穫の白菜を、みやぎ生協店舗にて販売



高校生と一緒に白菜の試食をおすすめ。



店頭に並んだ仙台白菜。好評を博していた。

11月3日、みやぎ生協幸町店（仙台市）にて、復興のシンボルとして位置づけられている仙台白菜の販売を行ないました。

この日販売したのは、8月中旬に宮城県内の13農協で作付けし、初収穫を迎えた仙台白菜200kg。みやぎ生協、JA全農みやぎのほか、仙台白菜の栽培などに関わっている宮城県農業高校（名取市）や明成高校（仙台市）の生徒、また「食のみやぎ復興ネットワーク」※にご協力いただいているメーカーの方が店頭立ち、来店者に試食を提供しながら、仙台白菜をおすすめしました。

みやぎ生協店舗商品部農産担当統括の今野一彦さんは、「復活した宮城の伝統野菜である仙台白菜を広く販売・普及していくことで、生産者の皆さんの復興につなげていきます」と話していました。

※生産者や食品関連業者が連携し、地域復興を目指す取り組み。